



低出生体重児とその予防

企画：
日本医師会

No. 596

東京都立小児総合医療センター新生児科 部長 岡崎 薫

低出生体重児

低出生体重児とは出生体重が2,500g未満の赤ちゃんで、令和5年には約7万人(約9~10%)が生まれました(図)。早産児とは妊娠37週未満で生まれた赤ちゃんで、年間約4万人(約5~6%)が生まれています。また、妊娠週数に比べて小さく生まれた赤ちゃん(SGA児*という)は、安全に出産できる時期と考えられている妊娠37週から42週未満に生まれても、低出生体重児になることがあります。

胎児期の成長・成熟が中断されて早産で生まれた低出生体重児は、より早く生まれるほど、頭蓋内出血、慢性肺障害、動脈管開存症、重症感染症、未熟児網膜症などの合併症を伴うリスクが高くなりますが、現在では、低出生体重児の生存率は大幅に上昇しており、ほとんどが成人に達します。

*: Small for Gestational Age児

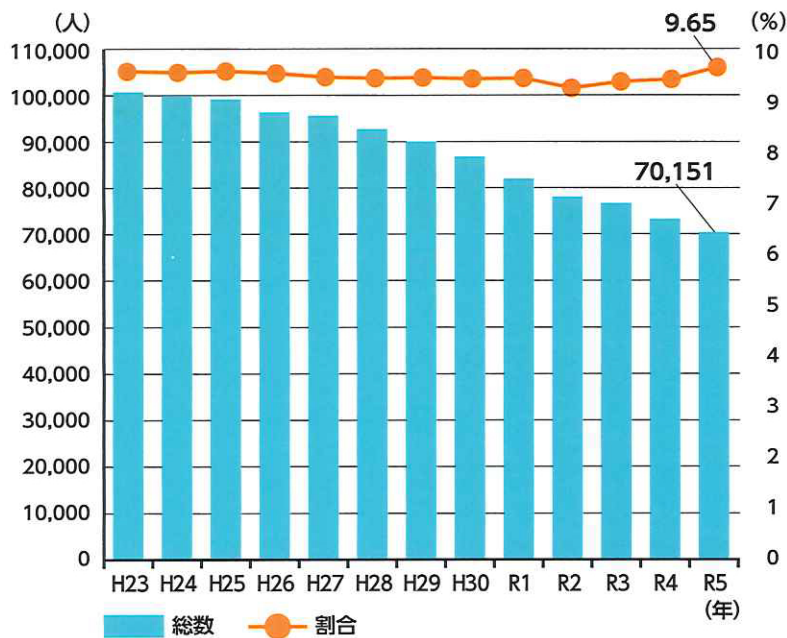


図 低出生体重児(2,500g未満)の総数と割合

こども家庭庁 第5回こども家庭審議会成育医療等分科会(令和7年3月12日)資料
[成育過程にある者等の状況について]より

成人後も続く健康管理

低出生体重児は成人期に達してからも、虚血性心疾患や高血圧などの心血管系疾患、脂質異常症や糖尿病などの生活習慣病、うつ病をはじめとする精神疾患などの発症リスクが高いことが知られています。そのため低出生体重児は、成人後も定期的に健康診断を受け、健康管理に留意する必要があります。

予防するには

若年妊娠や喫煙、やせ、違法薬物、感染症などは、低出生体重児の原因になります。世界保健機関(WHO)では、「プレコンセプションケア」を「妊娠前の女性とカップルに医学的・行動学的・社会的な健康管理を促すこと」と定義しています。男女ともに若いうちから性や妊娠に関する正しい知識を身に付け、将来のライフプランを考えて日々の生活や健康と向き合うことが大切です。

次の世代の健康のために、プレコンセプションケアは大事な取り組みです。



日本医師会ホームページでは、健康ふらざのバックナンバーがご覧いただけます。



健康ふらざ
バーコード読み取り機能付き
携帯電話もしくはスマートフォン
でご利用になれます。